



令和7年10月31日
新津地区公民館

「文芸あきは第19号(最終号)」の発刊と 表彰式の開催について

地域の皆さまの文芸作品によって彩られ、地域の文化とともに歩んできた「文芸あきは」は、このたび発刊された第19号をもって幕を閉じることになりました。前身の「文芸にいつ」創刊から半世紀の歴史となります。

つきましては、最終号の発刊と表彰式の開催について、より多くの方から文芸を身近に感じていただき、受賞者にとっても励みとなるよう、ご案内をさせていただきます。

<これまでの歩み>

昭和51年	旧新津市の市制施行25周年事業の一環として開催された文芸祭にあわせて「文芸にいつ」が11月5日に創刊、その後第31号まで継続
平成19年	新潟市が政令市となり「文芸あきは」として新たな一步
令和元年	発行主体が新津文芸協会に変更
令和7年	第19号が最終号として11月1日に発刊 ※「文芸にいつ」創刊から通算で第50号

<最終号の見どころ>

- 新津南高校の授業で俳句の応募作品創作を行っていただき、「青春の部」に28名の作品が寄せられました。
- 小説に「恙虫病」の予防医学に尽くした地元の医師の物語が寄せられました。

<表彰式>

日 時	令和7年11月16日(日) 10:30~11:30
会 場	新津地域交流センター (秋葉区新津本町 1-2-39)
内 容	主催者あいさつ、賞状授与、 受賞者紹介、受賞者代表あいさつ、 各部門選考委員講評

※受賞者は裏面のとおり



文芸あきは第19号(最終号):写真左側

- 新津図書館、区内コミセン等で閲覧可
- 新津地区公民館で購入可(1冊 1,000 円)

お問い合わせ

新津文芸協会(事務局:新潟市教育委員会事務局 新津地区公民館)

担当:権平、森山 / 電話:0250-22-9666 FAX:0250-22-9616

メールアドレス:niitsu.co@city.niigata.lg.jp

文芸あきは第19号(最終号) 受賞者

部門	最優秀賞	優秀賞
随筆	はちじゅう て なら 『八十の手習い』 おがわ ゆうぞう 小川 雄三 (古津)	なに ため しょ なら 『何が為に書を習うか』 なかむら へいさく 中村 平作 (福島)
		に いもうと 『似ていない 妹』 かとう ふみこ 加藤 文子 (新津四ツ興野)
短歌	かんのんめぐ 『観音巡り』 ばば あやこ 馬場 綾子 (小須戸)	おも なつ ぶんげい 『思ひ懐かし文芸あきは』 あべ やえ 阿部 八重 (車場1)
		そつ じゅ 『卒寿に』 かざま ほうせん 風間 芳仙 (川口)
俳句	ごくしょ 『極暑』 ま の 間野 えり (新保)	くり はな 『栗の花』 つちや とうこ 土屋 瞳子 (北区つくし野1)
		む ね はな 『合歡の花』 ほんま てるこ 本間 照子 (さつき野1)
俳句 (青春の部)	むだい 『無題』 こばやし ゆうみ 小林 優実(新津南高等学校1年)	むだい 『無題』 いとう れいら 伊藤 玲來(新津南高等学校1年)
		むだい 『無題』 わたなべ め い 渡邊 芽衣(新津南高等学校1年)
川柳	ざつえい 『雑詠』 みなみざわ ちえ 南澤 千絵 (田家3)	ざつえい 『雑詠』 こばやし けい こ 小林 恵子 (栗宮)
詩	該当者なし	該当者なし
小説	該当者なし	こぐち つつがむし い 『小口の恙虫医』 ばんざい じゅんいち 萬歳 淳一 (中央区鎧西1)